



日野法界寺と日本新薬・山科植物資料館

平安時代の阿弥陀如来像が残る山科日野の法界寺と、世界各地から収集した 3000 種を越す薬用・有用植物を栽植している日本新薬の山科植物資料館を訪ねます。午前中は日野の法界寺を訪ね、午後、山科植物資料館内で持参弁当の昼食を済ませた後、レクチャーと園内見学(ガイド付き)の 2 時間を楽しみます。

Aグループ 福嶋(昭)

- 1: 日 時** 2024 年 3 月 21 日(木)
- 2: 集 合** 10:30 京都地下鉄東西線「石田」駅改札口
改札口は一ヶ所のみです。トイレは駅構内です。
石田駅ホーム中程にエスカレーターがあります。
- 3: 行 程** 10:30 石田駅 —— 10:55 日野法界寺 11:25 —— 11:55 石田駅 12:02 —— 12:16 地下鉄「柳辻 (なぎつじ)」駅 —— 12:25 山科植物資料館(12:30 ~ 13:00 昼食・13:00 ~ 15:00 レクチャーと園内見学) —— 15:10 柳辻駅 (—— 徒歩 —— 地下鉄)
- 4: 解 散** 15:15 京都地下鉄「柳辻」駅
- 5: 持ち物** 弁当・飲み物
- 6: 歩行時間** 地下鉄石田駅と日野法界寺 往復 徒歩 50 分
地下鉄柳辻駅と山科植物資料館 往復 徒歩 20 分
(全行程、ほぼ平坦な道です)



日野法界寺国宝阿弥陀如来座像 →

↓地下鉄柳辻駅から山科植物資料館へのグーグル地図



(以下、日本新薬パンフレットより)

山科植物資料館 1953 年の「山科植物研究所」の発足から現在に至るまで、世界中から収集してきた植物コレクションは、約 3000 種。その中には絶滅危惧種も多数含まれています。

ミブヨモギ記念館



ミブヨモギ

昭和の初め、回虫駆除剤「サントニン」は 100 % 輸入に頼

っていました。そこで日本新薬は 1927 年、ヨーロッパから導入した *Artemisia maritima* subsp. *monogyna* の種子 2g を育て、サントニンの成分を抽出することに成功しました。この記念すべき植物を当時の会社所在地「壬生」に因み、「ミブヨモギ」と名付けました。その後山科試験農場において本格的に改良試験が行われ、サントニン含有量の高い優良品種「山科 2 号」の作出に成功しました。こうして生まれた国産サントニン日本から回虫感染を駆逐し、国民の健康づくりに貢献しました。また戦後導入したパキスタン原産のクラムヨモギ (*Artemisia kurramensis*) とミブヨモギを人工交配して得られた優良品種ペンタヨモギ、ヘキサヨモギは、植勸特許国内第 1 号として知られています。



大温室



ビオトープ